

報 告 う で ま く り

一般社団法人

福島県女性経営者プラザ

出会いを大切に！

福島県女性経営者プラザ

会長 上 石 美代子



りお見舞い申し上げます。

今年の夏は、30年に一度の異常気象で猛暑が続ぎ、埼玉県の熊谷市では7月23日に41・1℃、福島市も7月22日に38・3℃を記録。猛暑が過ぎたら西日本豪雨、そして北海道胆振東部地震と日本列島はいろいろな災害に脅かされました。7年前の東日本大震災の教訓はあるものの、災害に対する予知避難の難しさ、ライフラインが途絶えた時の準備等の難しさを改めて考えさせられました。被災された皆様には心よ

今年度もあつという間に後半戦。「みんな仲良くこころひとつに！」のテーマのもと、講師先生との出会い、会員同志の出会いが沢山ございました。人生80年として、人が出会う人の数は、同じ学校や職場、近所の人3000人、親しく会話を持つ人300人、友人と呼べる人30人、親友と呼べる人3人に平均的にはなるそうです。人が人と出会う確率で言うとお互いに親しく会話を持つ人と出会う確率、2400万分の1、友人と呼べる人と出会う確率、2億4千万分の1、親友と呼べる人と出会う確率24億分の1になります。これは2016年の世界人口約73億4千万人の統計です。この天文学的な確率を考えると、FJPで出会った会員同志も単なる偶

◆FJPの目的◆

- ①女性経営者としての資質向上
- ②次の女性たちのための風土づくり
- ③共同事業の開発
- ④地域・社会への貢献

然では無く、意味があるように思えてきます。年齢の幅も広く20代～70代、携わっている仕事も様々、もちろん生きて来た環境も様々だと思います。その中で、今年度は「みんな仲良くこころひとつに！」のテーマで学び、意見交換出来る場がある。それが、FJPだと思います。

8月例会のかくし芸のパワーと結束力は、どんな困難にも立ち向かうことが出来ると確信致しました（笑）。少し前によく例えに挙げられた金子みすず先生の「私と小鳥とすずと」の中にあつた「みんなちがってみんないい」とおり、一人ひとりとの出会いを大切に、お互い認め合い、切磋琢磨して成長して参りましょう。

FJPは、心を開いて話ができる場です。天文学的な確率でFJPを選んでくださる新しい仲間もお待ちしています。ちなみに「みんなちがってみんないい」の対義語は？——「揃いも揃ってみんなだめ」だそうです。

未来に向かって 一緒に夢を語りませんか



●うでまくりとは

古い川柳に「朝雨女の腕まくり」というのがある。天気の良い朝にバラバラと急に来る雨は、女の腕まくりと同じで意気込みだけ、大したことはない…という意味。FJP、女の腕まくりの真価はこれから！

◆第23回 定時総会開催

◆2018年5月8日(火) 12時～15時

◆郡山市・ホテルハマツ

定時総会は、福島県中央企業団体中央会副会長兼専務理事熊本俊博氏のご臨席のもと、出席会員45名(内、委任出席12名、出席率100%)の参加を得て開催された。議長(会長)の円滑な進行で全ての議案が提案通り承認され可決された。全体進行は菊池美保子総務委員長。

提示された議案は、第1号議案「H29年度事業報告並びに収支決算報告、監査報告、第2号議案「新年度の事業及び収支計画案の承認、第3号議案「役員改選案、第4号議案「



挨拶する上石美代子会長

その他(女子学生作文募集事業案)である。

■みんな仲良く心ひとつに！

前年度は「福島未来に向けて女性経営者を育てよう」をテーマに掲げ、新入会員増強と月1回の定例会を着実に進めてきた。新年度は「みんな仲良く心ひとつに！」。理事と会員が連携を強め、ここを一つに事業を着実に進める。一体感を実現するのが狙い。特に、女子学生作文募集事業は今年で第5回目。重要な節目を迎え対外からの注目度も高まっております。最善を尽くす必要がある。心をついに、をスローガンに取り組んでいきます。

■平成30年度役員体制

新年度は、会長・上石美代子(再任)、副会長3名(横山りつ子、紺野涼、安斎恵美子)、監事2名(三田公美子、佐藤和江)が再任され、従来通り総務委員会、事業委員会、交流広報委員会



の3委員会構成——総務委員会は委員長・古川節子(新任)、副委員長・野地千尋(再任)／伊藤江梨(新任)、所属会員10名。事業委員会は委員長・瀬戸孝子(再任)、副委員長・小山美和(再任)／古川文子(新任)、所属会員9名。交流委員会は委員長・会田和子(再任)、副委員長・澤上春江(再任)／長尾千代美(新任)、所属会員10名。

また、女子学生作文募集事業の拡充に伴い、協賛企業獲得や告知活動等専任体制で推進する必要性が高まり、三田監事を実行委員長とする特別プロジェクトチームが編成された。総会では、山本欣子実行副委員長から、第5回実施企画の詳細・協賛企業の見込み等について説明がなされた。

新役員メッセージ

総務委員長 古川節子



会員も増え、事務量も増していますが、ICTを活用して、合理化や省力化を図っていく、運営は総務委員全員で力を合わせて進めていきたいと思っています。会員歴は古いですが、新人になったつもりで貢献して参ります。

総務副委員長 伊藤江梨



入会したばかりですが、税理士という立場を活かし、毎月の会計報告など着実に進めていきます。事務処理の正確性、信頼性を高めていくために微力ながらお役に立てれば嬉しいです。

事業副委員長 古川文子



会員になって2年目。交流員会に所属して活動の様子が頼もしく見えてきました。魅力的な会員の方が多いので、一緒に活動することが楽しいです。事業を円滑に進めていくために少しでも力になりたいと思います。自分も成長したいので努力します！

4月定例会

2018年4月17日(火)
場所…宴庭・燦(郡山市)

◆会員に聞く◆

・澤上春江 (交流広報委員会副委員長)
・聞き手…三田公美子

『イタリア短期滞在を体験して』
—なぜ、イタリアへ?—

澤上…働くこと37年。気がついたら、感動もなく覇気もなくなっていた。これからどうしようか…自分を取り戻したい思いで、イタリアのフィレンツェに。ここは街全体が世界遺産。自然に囲まれた豊かな盆地で、歴史的建築物も多い。安心して料理を学べる魅力的なまちだと思いました。

—50日間のリフレッシュ、成果は?—

澤上…アパートでの暮らしやオン・オフの切り替え上手な人たちの交流は楽しく、感動の連続。スローフードの国で、さすが世界遺産、本当に小さな宝石箱のような街でした。建物の傍に馬もいたりして。外は歴史を感じさせつつ重厚で変わらないが、中はとても自由。皆優しく親切でした。絵画学校に通ったり、フェラガモのワイン農場を視察したことも良い思い出。この年齢でホームステイできるのか不安で



したが、言葉も何とかなるし、面白かった。家賃月10000ユーロ(約14万円)、生活費月3万円位。熟年留学…是非、お薦めです。

(編集部注) 体験談レポートを「うでまくり」18号に掲載。ご一読ください。

★きらめきゴルフ開催★

9月11日(火)、白河国際CCにおいて、きらめきゴルフ会を実施。参加者8名と少なかったのですが、乳がん啓発ピンクリボンチャリティゴルフに参加。女性ばかり150人以上が集まりとても華やかでした。母



心お笑いライブが選ぶベストドレッサーに、桃色ウエアの矢部会員が見事選ばれ、豪華な記念品をゲット。

5月総会記念講演 — 2018年5月8日(火) ホテルハマツ(郡山市)

女性経営者に望むこと

講師…福島トヨタ自動車 西村 毅氏

東邦銀行から福島トヨタ自動車に転身の西村氏。現在は東北のトップディーラー福島トヨタ自動車の営業から人事までの重責を担われている。金融・車と日本の男社会を代表する企業で手腕を発揮してこられた西村氏、さぞ女性に手厳しいのではと思いきや、予想に反して終始一貫優しい励ましに満ちていました。過分な女性称賛と笑顔で、われわれ女性経営者を暖かく包み込んでくれました。

西村氏が女性の力や可能性を信じている背景には、銀行勤務時代29年のうち10年以上が単身赴任だったということがあります。一人暮らしの経験がものの方や女性をみる見方を変えたとのこと。奥さんまかせだった洗濯も料理も自分自身でやってみて、



■西村毅氏・プロフィール

1957年福島市生まれ。東北大学経済学部卒業後東邦銀行入行。東福島・仙台・平西・郡山卸町・平の各店勤務、支店長として方木田・郡山中町・宇都宮・相馬を歴任後、平成21年4月福島トヨタ自動車入社。常務取締役管理本部長兼総務部長を経て、専務取締役管理本部長兼総務部長に就任、現在に至る。

6月移動例会

2018年6月12日(火)

場所…昭和村からむし織の里
(福島県大沼郡昭和村)

あいにくの雨模様の日。大型バスで奥会津昭和村からむし織の里を目指した。(参加者35名)。昭和村観光の拠点となっている道の駅「からむし織の里」しょうわに隣接する形で、織姫交流館、からむし工芸博物館、郷土食伝承館芋麻庵がある。



◆質が良く希少価値の高いからむし

福島県大沼郡昭和村は、人口1200人、からむし栽培を絶やさずに続けてきた本州唯一の村である。からむしは、イラクサ科の多年草の植物。茎から強くしなやかな繊維が採れる。その青芋は、最高級織物の越後上布や小千谷縮(おおやちじみ)の原材料として高い評価を受けている。H29年11月に国の伝統的工芸品に指定された。

100年以上前から村に伝わる技術で織られているからむし織を実際に体験する絶好の機会となった。自分で織ったコースターは後日届けてくれるというお楽しみ付き。伝承館での昼食はニシンの山椒漬けや手打ち蕎麦が人気の「郷土食膳」。印象的で良き思い出になりました。



会津やないつの「斎藤清美術館」前で。AIZUの世界的版画家斎藤清の作品を堪能。素晴らしいコレクションは福島県の自慢です!!

7月定例会

2018年7月10日(火)

場所…ウエディングエルティ(福島市)

講演『課題先進国ニッポンとふくしまの未来』

福島民友新聞社代表取締役社長

五阿弥 宏安氏

急激に進む少子化、高齢化、そして現役世代の減少という日本を取り巻く課題を解決するために、地方創生、女性活用、高齢者像の見直しが必要課題であること、福島との関係性から説いてくれた。何より欠かせないのは危機意識の共有であるというご指摘も、住んでいる人のためのまちづくりをする、ないものねだりよりもあるもの探しをする、というお話も、切実に心に響く。

女性経営者として、今何ができるか、何をすべきか。震災以降の福島に、2025年問題にも無関心ではいられない。本気で考えてみる時期に直面していると気づかされた講話でした。



五阿弥宏安氏 プロフィール

1958年1月生まれ(宮崎県出身)。早稲田大学政治経済学部卒。1978年4月読売新聞社入社。社会部長、論説委員、取締役編集局長等歴任後2014年6月、福島民友新聞社代表取締役社長、編集主幹 現在に至る。

ふくしまの自慢⑥ 三田公美子

一本の水路

経済県都といわれる郡山市。江戸の頃は奥州街道の一宿場町で人口も千人に満たなかったといわれます。

それが明治六年からの安積野開拓と国営疏水開さく事業により、不毛の原野が豊かな大地に変貌し、今日の都市の誕生になったのです。

いま郡山市は歴史の大切さに目ざめ、安積疏水にスポットをあてて「二本の水路」なるキャンペーンを大々的に展開しています。これにちなんだ商品づくりやイメーヅづくりも力をこめて展開しています。

疏水ゆかりの名所旧跡はたくさんありますが、旧市街の中心、麓山公園の滝は必見です。疏水が初めて通水したその時の滝です。



8月定例会

2018年8月26日(日)
場所…陽日の郷あづま館
(二本松市岳温泉)

猛暑・酷暑。夏の疲れを吹き飛ばそう！ 夏会合の場にふさわしい鈴木美砂子会員の陽日の郷あづま館で2泊する定例会を実施。15:00理事会、15:30定例会、16:00勉強会、終了後は夕食交流会。各委員会は交流会で披露するかくし芸を準備して参加、日頃のストレス発散で親睦を深めた楽しい定例会となりました。

◆勉強会のゲストは西川美之さん

総務委員会吉田陽子会員の縁で、メディカルアロマを研究している西川美之さんから、「毎日カシタンにできるセルフケア・エッセンシャルオイルでココロとカラダをハッ



ピー」を学びました。リラクセス効果があり、睡眠促進効果も高い「ラベンダー」やエスニック料理に使われる「バクチー」に含まれるアロマは放射線からの損傷を防ぐ防護効果があること、ヘルスケアや健康維持には良質のミネラルが鍵、レモン水を毎日飲む、健康改善の秘訣を沢山理解することができました。

◆交流会の目玉はかくし芸

泊りでしかやれないこと、大きな楽しみとなった「委員会別かくし芸」。各委員会ともそれぞれ所属会員の特技を生かし、拔群のアイデアと見事な演出で登場しました。やる時はやる、ノリノリでやる、このFJPの精神が最もよくあらわれる「かくし芸」。新会員がガンバつていて頼もしく、FJPの未来は安泰だと、改めて認識できた夜でした。



せつかく練習したのに、平日欠席した平栗さん



会長とのじゃんけん大会で優勝



交流広報委員会

《委員会報告》

◆広報交流委員会

委員長 会田 和子

今年度、影山美智子さん、福田澄子さん、中村須美子さんなど新たに加わり、さわやかさ倍増です(15名)。委員会活動は全員で情報を共有する大事な機会と認識しています。基本的に①うでまくり会報制作、②女子学生募集事業、③新会員入会促進、④その他を検討課題として意見交換することが目的です。

前半は、かくし芸のアイデアを練る目的もあり8月11日に、三田監事を交えた本格会議を18日に、全2回開催。作文の一次審査担当委員も5人無事決定。会報発行もめどがつき、後半さらなる拡充を図っていきます。



新入会員紹介



㈱中村建運代表取締役

中村 須美子さん

(広報交流委員会)

このままでは
いけない！

嗚呼、嗚呼、私なんて…と悲観的、卑屈になりそうな時、上石会長からFJP入会のお誘いを頂きました。自分の中でこのままではいけないと思う気持ちは何の迷いもなく入会したきつかけでした。もちろん、会長の後押しがあつた事は言うまでもありません。

日常の社会で落ち込む原因はたくさんありますが、人間不信とはいささか厄介です。私は自分で飛び込んでやってきた運送会社なのに男性ばかりの人選で悩んでいたのです。社会は二人から成立しますから、一人一人が沢山の社会を持つているわけです。ストレスのない人はいません。

FJP会員は様々な職種の方々なので、沢山の会員の話を聞いてみたいと思います。そして、雑談の中からでも自分を元氣付ける、やる氣がでる、前向きな姿勢やパワーを頂いてFJP会員として輝きたいと思います。

《会員紹介メッセージ》



㈱財経戦略研究所専務取締役

矢部 祥子さん

(総務委員会)

矢部祥子さんを
仲間を迎えて

FJPの豪華絢爛に咲く花々(会員)の中に入っても目立つ華やかな大輪の花、それが、矢部祥子さんです。ご主人が㈱財経戦略研究所を経営されており、サポートをされておられます。とても、氣の利く方で、先に先にと何事も動いてる感じがします。フットワーク軽く動かれるので、疲れないかな?と心配するくらいです。性格はおおらかで周りの方を包み込む優しさを備えておられます。

他の団体でも活躍されているのでお忙しいと思いますが、FJPにはまた違った魅力がありますので、積極的に参加され、学んで頂ければと思っております。総務委員会に所属されておりますが、実力を発揮され活躍されることを祈って…。(紹介者:上石美代子)



《委員云報告》

◆事業委員会

委員長 瀬戸 孝子

9月14日(金)、ホテルハマツにおいて、事業委員会を午前11時から開催致しました。

4月～8月迄の諸活動の反省を含め、10月以降の行事について、どのように進めるかを話し合いをいたしました。これからが大事業の「第5回女子学生懸賞作文」の募集のまとめと表彰式に向けての活動が始まります。作文に関しては、実行委員の方々がいますが、事業委員会としてもお手伝いできる事はバックアップして参ります。

11月のいわき移動例会は、伊藤江梨総務副委員長と中村須美子会員による「会員に聞く」に決定。作文選考委員は、古川文子副委員長、小山美和副委員長、菅野喜久江会員、長沢美起子会員です。まずは選考する前に作文募集に声掛けをして行きましょう！

◆総務委員会

委員長 古川 節子

新年度となり、新たな委員会体制になったことで、顔合わせを兼ねた委員



会を5月22日(火)・二本松ドリームで開催。総務に関わる業務の引継ぎと、今後の運営に関して話し合いを致しました。総務の仕事は多岐にわたっているため、個人にかかる負担を少しでも軽減することを課題とし、会員間の情報交換を密にすること、毎月の定例会は総務委員会の出席会員で役割分担するなど、会員それぞれが出来ることで運営に参加してもらうこと等を決定。他の委員会とも情報を共有し、FJP事業のスムーズな進行を図って参りたいと思っております。各委員長さんには、定例会への出席率アップと、出欠の期限内FAX送信にご尽力をお願いしておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

会員皆さまにとって、楽しく実のあるFJPとなりますよう後期も力を合わせて参ります。ご指導・ご助言・ご協力よろしくお願いいたします。

編集後記

仕事と技術を学ぶスクールビジネスで、農業や林業を学ぶコースが人気だそうで、老若男女問わず転職・転身ニーズが強いというので驚いた。田んぼの後継者になつてくれるのかしら…。

(会田和子)